

2023年度 神奈川県内 非営利団体の介護事業所様へ

# 補助金を活用しコミュニケーションロボット PALRO高齢者福祉施設向けモデル導入のチャンス！

コロナ禍での利用者さまとのコミュニケーション不足やレク不足を補うため、  
コミュニケーションロボットPALROを導入している施設が増えています。

## 介護スタッフの頼れるパートナー

### QOL向上

面会制限が続く中、PALROとの触れ合いで  
笑顔が増えたり、傾眠が減り生活リズムが  
改善しています。

—介護老人福祉施設スタッフ—

### 介護業務 負担軽減

レクや体操をPALROが実施することで、  
スタッフが介助に集中・専念できました。  
介護スタッフの時間的・精神的負担軽減に  
貢献してくれています。

—介護老人保健施設スタッフ—

コミュニケーションロボット  
**PALRO (パルロ)**  
高齢者福祉施設向けモデル



PALROは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「ロボット介護機器開発・標準化事業」など多数の公的事業で導入効果が確認されている介護ロボットです。

## 公益信託中西茂雄高齢者福祉基金助成金 補助対象機種

PALRO高齢者福祉施設向けモデル（提供価格670千円）が

本体価格 **17** 万円（税別）で購入できます

※別途送料、クラウドサービス利用料、初期導入費用（任意）がかかります

**【申請期限：2023年6月2日】**

補助金申請の記入例、ご用意しております



コロナ禍でも活躍中

【お問合せ先】 富士ソフト株式会社 パルロセンター  
10時00分～17時00分（土日祝日を除く）

電話：050-3000-2136

メール：palro-center@fsi.co.jp

製品詳細は

パルロ



で検索

プロモーションビデオは [こちら](#)▶



# 介護ロボットのフロントランナー PALROが導入されるワケ

全国 1,500 箇所以上の介護施設での導入実績をもつPALRO。  
コロナ禍の今、PALROが必要とされるワケ（理由）を伺いました。

「職員の心理的負担も減り、より良いケアへ還元することができている」

厚生労働省ならびに公益財団法人テクノエイド協会発行の  
「介護ロボット導入活用事例集2022」に  
社会医療法人仁寿会 グループホームかわもと「あいの家」様  
によるPALRO導入事例が紹介されています。

職員のITリテラシーにあわせた4段階の使い方を設定し  
無理のない運用の定着を実現させた方法が紹介されました。

事例集から導入施設様の声を抜粋してご紹介します。



## 職員のITリテラシーにあわせて、 使い方を変更無理のない定着を目指す

### ■導入前ヒアリング

導入前、ミーティングなどで職員の意見を聴取しました。  
当グループホームの職員の平均年齢は63歳で、導入に  
前向きではない職員がいることがわかり、特にITリテラシーが  
低い60歳代・70歳代の職員からは「スマートフォンも十分に  
操作できないのに、ロボットなんて不安」との声が聞かれました。

### ■導入前研修

上記課題を解決するために、製品カタログや活用事例の研修を  
行いました。



施設職員同士で研修を行う様子

### ■運用定着化策

まずは、「PALRO」の運用定着を第一に考え、職員をレベル分けし、  
「PALRO」運用への関わり方をそれぞれが新たな負担とならないように  
設定しました。具体的には、①設定や新しい活用方法の検討を行う、  
②タブレットなども活用し普段使いする、③スイッチのオンオフだけ行う、  
④見守りだけ行う の4業務に分類し、無理のない導入と次のステップを  
目指せる安心運用体制を整えました。

社会医療法人仁寿会様の  
詳しいPALRO導入事例  
こちらをご確認ください。  
PALROの導入事例は、  
72ページ（73枚目）から掲載。



## 実証にご協力頂いている医学専門家

近年の研究により、私たちの命を長く保つためには、「運動」や「食事」に加えて  
「人や社会との関わり」が重要であることがわかってきました。

今般の感染症の流行により、他者との交流が健康維持に重要であることの認識が広  
まったと思います。

ご家庭や高齢者施設において、日常的に会話や歌・体操といったコミュニケーション  
をとることができるPALROの活躍に期待しています。



谷口 優 先生  
国立環境研究所  
主任研究員／医学博士